意見１

参考資料１

ニセコ町人口ビジョン骨子（案）およびニセコ町総合戦略骨子（案）についての意見

１．ニセコ町の人口ビジョンと総合戦略にたいする基本的な視点について

（１）ニセコ町の人口問題を考えるためには、日本全国における人口動向とともに地方性を反映している北海道における人口動向の中で、ニセコ町に特徴的な動向を把握することが重要である。

（２）ニセコ町人口ビジョンで抽出した課題が、ニセコ町総合戦略に連動する仕組みになっていることを考えるならば、ニセコ町の人口動向の特徴を的確にとらえることは、適切な戦略を組み立てるうえで決定的に重要である。

（３）上記の視点に立って、概要を見ると、人口分析データ等の事実認識および解釈の仕方、さらにそこから抽出された課題の抽出において、残念なことに、疑問を抱かざるを得ない個所がいくつも見られる。以下に、ニセコ町の人口ビジョンと総合戦略の概要および骨子（案）にたいし、コメントを記す。

２．ニセコ町人口ビジョン骨子（案）にたいするコメント

（１）概要に記載された課題は、その判断の基となっているデータ（骨子（案）のⅢ．人口分析結果１．人口の現状分析に記載のデータ類）をたどると、根拠が薄弱ないし的確さに欠けていると考えられる。さらに言えば、データから抽出された課題がニセコ町の最近の人口動向および現状の特徴を適切に示しているとはいえないと考えられる。故に、戦略を立てるための指標にすることに疑問がある。

（２）概要について具体的な問題点の指摘と対案

- 最初の囲み

　３つのメッセージで何を伝えたいのか不明瞭。とくに２番目のメッセージの後段の表現は生煮えの状態（だからどうするのかに応えていない）。

代案例

- 全国的な人口減少が進んでいく中で、ニセコ町は１９８０年以降人口が増加傾向にある珍しい町村。
- これはほとんど全世代にわたり、転入者数が転出者数を上回った結果によるものであり、とくに２０-４０代の転入超が多い。
- 今後この傾向を継続し、安定した人口を維持するためには、町民参加のもと、町全体で「自治創生」に取り組み、戦略をたて、政策を実行していく必要がある。

- 人口の囲み

　人口の微増傾向については、より正確に１９８０年からと時期を書いた方がいい。市町村によっては所在する企業の活動により一時的に人口が増加するところ（留寿都村や泊村など）があるが、ニセコ町は恒常的に微増していることが特徴である。人口が増加している自治体には主に大

意見１

きな都市が含まれているが、記述の通り、５０００人規模の小さな町村単位では非常に少ない。したがって、最初の囲みの１番目のメッセージは「自治体」としないで「町村」とした方がいい。

【転入・転出】

✧ 社会増は、３０-４０歳だけではなく、ほとんどすべての年齢層にわたっていること、そしてとくに２０-４０代に多いのがニセコ町の人口増加の特徴。１０歳未満の増は、２０-４０代の家族の移住に伴って結果として起こっていることなので、必ずしも取り立てる必要はないと思う。

✧ 「２０-３０代の移動が特に多い」のは、地方市町村に共通する傾向。大学や専門学校などがなく、また就職先が限られている地方の市町村では進学や就職のために、高卒後の年齢層で、急激な人口流出（この層の人口減少）が全国的に見られることなので、ニセコ町の特徴として取り上げる理由はない。むしろ、ニセコ町にこの層の若者がかなりの人数移住している事実を、将来の人口を考える際にどう積極的にとらえるかが重要な課題というべきではないか。

✧ 「対都市圏で人口流出超（東京圏、札幌）」についても、地方市町村に共通する傾向であり、ニセコ町の特徴として、もし取り上げるのであれば、さらに突っ込んだ分析が必要と考える。転出入の帳尻については、対首都圏と札幌で約１割の転出超とどまっていることや対近畿圏で、転入超であること、さらに北海道の対地方都市で、転出超傾向にあるものの転入超も見られることや対周辺町村ではほとんどが転入超であることなどが見られる（P10 の２つの図をもとに計算）。それぞれについてどの年齢層が転出入しているかなどのデータ分析も含め、ニセコ町の特徴を明らかにし、今後の施策に生かすことが重要と考える。

【出生・死亡】

✧ 「死亡数が出生数を上回る。」をより正確に表現すれば、「１９９５年以降、２、３年の例外を除き、一貫して死亡数が出生数を上回っている。」

✧ 「出生数は増加傾向合計特殊出生率も近年増加に転じた」をより正確に表わせば、「２００５年以降、増加傾向にあり、低下を続けていた合計特殊出生率は、２００３-２００７年に底を打ち２００８－２０１２年に増加に転じた。」（倶知安町でも同じ傾向がみられる）となる。ニセコ町で合計特殊出生率がなぜ低下し続けたか、なぜ増加に転じたかを分析すれば、この傾向が今後も続かどうかあるていど推定できるのではないか。また、その分析から、どうしたら合計特殊出生率を今後高めることができるか、施策作成のヒントが得られるのではないか。

● 雇用の囲み

「従業員数は「農業・林業」と「宿泊業・飲食サービス業（観光業）」が多い。」は事実であるが、農業林業の従事者が減り続けている。他方、宿泊業・飲食サービス業（観光業）の従業員数が増えている（データを持ち合わせていないので要確認）傾向から、今後どのような施策が重要になる検討が必要と考える。

「正職員割合の低さ、完全失業数の増加傾向」については、前者は全国の傾向と比べて低いのは事実。（なお、P１６〈正職員割合〉の解説に間違いがある。　「・・・家族従業者（・・・）や家庭内職者（・・・）が多い。」の下線部は「雇人のない業主」とすべき。ちなみに家庭内職者は0％である。）後者〈完全失業者数〉のデータの信頼性、すなわち。国勢調査で信頼できる完全失業者数を把握できているのかどうか、また、２００５年と２０１０年の国勢調査で完全失業者数が増えたこと

を説明できる理由がどこにあるか疑問があり、このデータだけで増加傾向にあると判断するのはリスクが大きいと思う。ハローワーク岩内のデータなどとの比較検討が必要ではないか。

なお、Ｐ１６〈完全失業者数〉の説明で「増加傾向にあり、特に２０００年以降、特に男性が顕著である。」という分析に異論がある。２０００年の男と女の完全失業数をそれぞれ１とし、２００５年のそれと比較すると男２．４倍、女１．８倍となり、２０１０年では男３．６倍、女２．９倍であり、両年で男女ともを２倍ないし３倍前後の増加となっている。したがって、「特に男性が顕著である」とする理屈はない。

（３）概要に対する結論と提案

以上でみたように、課題として掲げられている３項目は、ニセコ町の特徴的な人口動向としてとらえには、不十分であり、確固としたデータの裏付けも弱い。したがって概要全体を見直し、ニセコ町の特徴を適切に反映させた形に書き換るべきと考える。

骨子の内容については、以下にコメントを述べるが、有用なデータの読み方に問題があるように感じる。データを深く読み、分析を加え、的確な結論を導くことが重要と思う。なお、この見直しや書き換えによって、総合戦略の基本目標や具体的な施策については、連動する部分の一部修正や追加が必要になると思うが、大きな変更をきたすことにはならないと考えている。

（４）骨子（案）の図表と説明に関するコメント・疑問など

- ✧ 全体として、分析が不十分。したがって説明もピンとはずれのものもある。
- ✧ 人口問題や雇用について、データから何を読み取るべきか、施策に生かすべきかを考えながら、もっと掘り下げるべき。
- ✧ とくに、アンケート結果を施策に生かすことが、将来のニセコ町を考えるうえで重要。
- ✧ また、データの信頼性についても検討すべき。

● 図表についての疑問点

Ｐ１７と１８．棒グラフの表示が一致していない。片方は新規求人数、他方は有効求人数。Ｐ１７の新規求人数は有効求人数の間違いではないか。もし間違いでないとしたら、新規求人数を出す理由はなにか。説明も読んでも内容を理解できない。マッチング率は業種でみると春冬の傾向は同じだが、サービス業に関しては冬季に有効求人倍率が増加する。その理由は？

● イ　将来人口の推計と分析

社人研の推定は日本全体の傾向を反映した推算だから、もともと仮定がニセコ町の特徴に合致していないから、あくまでも参考にしかならない。違い（約２０００人）を強調する必要はないのではないか。また、Ｐ２６の図の解説で社会増減の影響を強調しているが、ニセコ町の人口微増の特徴を考えれば、移動率を０に仮定したら、人口減になるのは当然の帰結ではないか。なぜ、こんな説明がいるのか。不要ではないか。

● ウ　人口の変化が地域の将来に与える影響

概要に掲載の影響について、老年人口の増加と集落単位で受ける影響の２つが取り上げられている。これは重要な問題提起であり、施策に含めるべきと考える。集落単位で受ける影響はすでに顕在化しており、対応が求められている。

なお、高齢化率は増加傾向にあるが、周辺町村と比較して、ニセコ町は増加率も平均年齢も相対的に低く、傾向が少し異なるなどの特徴がある。これらも検討課題である。

意見１

３．ニセコ町総合戦略骨子（案）にたいするコメント

（１）概要について

上記のとおり、人口ビジョンの項目の見直し、書き換えるべきと考える。したがって総合戦略の将来像や基本目標の表現は、その内容を的確に反映したものになるだろう。

（２）Ⅰ.「ニセコ町総合戦略」の位置づけについて

（まちづくり基本条例との関係）、（地域経済戦略としての性格９、（「環境」の施策レベルでの取り扱い）の表記の中で、文章や内容の重複が見られる。箇条書きの内容について、違いを明確にとらえることが難しい記述もあるので、内容の再吟味・再整理と的確で簡潔な表現への変更をお願いしたい。

「地域特性」とか「地域性」、「地域資源」などの言葉の意味を出来るだけ厳格に定義し、使用してほしい。例えば、「ニセコ町の地域特性（産業、気候など）には、「豊かな自然環境」という地域資源が多面的に貢献しているが、・・・」の文章について、これでは「気候には自然環境＝地域資源が多面的に貢献している」と読むことができるが、これは正しいだろうか。

（３）Ⅱ．基本目標と具体的施策について

〈将来像〉　「・・・『住むことが誇りに思えるまち』ニセコの実現」、〈基本的方向〉、〈将来像のねらい〉の記述の中に「住むことが誇りに思えるまち」という文章があるが、これは結果として得られるもので、目標に据えることに違和感がある。目標とするなら、「日々の生活で、住み心地のいい安心安全なまち、住み続けたいまち、住んでみたくなるまち」の実現が基本的な方向になると思う。人口ビジョンの中の、移住者のアンケート結果がニセコ町の将来方向を示していると考える。すなわち多くの移住者はニセコ町の魅力として「豊かな自然と静かな環境」をあげている。したがって、移住者の受入れにより、人口を維持するためには、その優れた自然環境を守り、住みよい住環境を整備することが基本方向となると考える。

これを実現するためには、まず豊かな自然環境とは具体的に何であるかを明らかにし、同時に住民が満足していない住環境の具体的な内容を整理すること、つぎにそれを保護・維持する施策はなにか、豊かな自然を生かす施策や住環境を改善する方向と施策はなにか具体的に検討し、実際の戦略・施策に反映させることと思う。総合戦略の具体的な施策の中にほとんど入り込んであるが、以下の２点について検討し、政策化することを願う。

①　農業の位置づけを重視し、役割を正当に評価し、その機能を高める施策を

農業はニセコ町の観光と並ぶ重要な産業であるにもかかわらず、戦略骨子案の中では位置づけが低く、施策も貧弱に感じる。ニセコ町の観光は農村景観や農産物と不可分な関係にあり、とくにすぐれた自然環境や景観形成に大きな役割を果たしている。これを施策に反映させてほしい。

②　すでにニセコ町内にある人材・資金・産業・資源などの積極的な活用を施策に

外部からの人材・資本などの引き込みに関する施策はあるが、ニセコ町内に埋もれている、あるいは活用されていない人材、萌芽的な状態にある取組みなどを掘り起し、活性化させる仕組み作りと住民の積極的な参加を促進する施策を検討していただきたい。

以上

意見２　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2016 年 1 月 15 日

「ニセコ町人口ビジョン」及び「ニセコ町総合戦略」骨子（案）の縦覧（意見募集）に関して、「ニセコ町総合戦略」骨子（案）についての意見を以下に述べます。

Ⅰ.「ニセコ町総合戦略」の位置づけ

（まちづくり基本条例との関係）

○ 全国的な人口減少が進んでいく中、ニセコ町は人口が増加傾向にある珍しい自治体。ニセコ町まちづくり基本条例が目指す「住むことが誇りに思えるまち」に向けた実践により、町民一人ひとりが「日々の暮らしの中でよろこびを実感できるまち」の実現を目指してきた結果と考えられる。

→これは少し、自画自賛的な表現ではないでしょうか。

人口ビジョン骨子案のⅡ「ニセコ人口ビジョン」の特徴では「10 歳未満や 30～44 歳で、転入数が転出数を上回る」「20～30 代の移動が特に多い」という「社会増」の一方で、「死亡数が出生数を上回る」「近年は出生数が増加傾向にあり、合計特殊出生率は北海道全体を上回る」としており、結果としての人口増であると述べています。ではなぜ転入者が増えているかと言えば、「アンケート分析結果のまとめ」（2015 年 10 月 28 日）の P3 の「5. 転入について」の「転入したきっかけとしては」「『自分の仕事・事業のため（就職・起業・転職・退職・転勤等）』が最も多くなっています。」とあり、また「6. 転出について」では「 転出を考える、又は転出を決めた理由」としては、『自分の仕事・事業のため（就職・起業・転職・退職・転勤等） 』が最も多くなっています。」とあります。

　そして、「ニセコ町に移住転入した際に魅力的と感じた点としては、『自然環境が豊かである』が最も多く、次いで『静かで落ち着いている』、『水や食べ物がおいしい』が続いています。」とニセコエリアの自然環境の良さを評価する項目が記載されています。したがって「住民基本条例」めざす「住むことが誇りに思えるまち」に向けた**実践や**町民一人ひとりが「日々の暮らしの中でよろこびを実感できるまち」の**実現を目指してきた結果**とみなすのは時期尚早ではないでしょうか。まだまだその途上にあるのではないでしょうか。

→青字部分の表現を変える

○ 全国的な人口減少が進んでいく中、ニセコ町は人口が増加傾向にある珍しい自治体である。行政と町民一人ひとりが「日々の暮らしの中でよろこびを実感できるまち」に向けた実践を積み上げることで、「ニセコ町まちづくり基本条例」が目指す「住むことが誇りに思えるまち」が実現でき、人口減少をくいとめることにつなげることができる。

（地域経済戦略としての性格）

意見２ 2016 年 1 月 15 日

○ 総合戦略は、環境創造都市ニセコが、自然環境をはじめとした地域資源を守るとともに最大限に生かしながら地域経済を豊かにし、資金や人材を呼び込むための地域経済戦略としての性格を持つ。

→この表現を一部変更する。

総合戦略は、環境創造都市ニセコが、自然環境をはじめとした地域資源を守るとともに最大限に生かしながら地域経済を豊かにし、町民の生活を安心で豊かなものにする~~資金や人材を呼び込むための~~地域経済戦略としての性格を持つ。

（「環境」の施策レベルでの取り扱い）

＜将来像＞

交流・連携のネットワーク拡大と環境整備による「住むことが誇りに思えるまち」ニセコの実現

＜基本的方向＞

全国的な人口減少が進んでいる中であっても、交流・連携のネットワークを広げてニセコ町の魅力を発信するとともにニセコ町への移住・定住などの受入れ環境の整備を進め、将来にわたり、「住むことが誇りに思えるまち」であり続ける。

→

全国的な人口減少が進んでいる中であっても、交流・連携のネットワークによってニセコ町とニセコエリアの魅力（＊＊）を発信することとともに、ニセコ町民が安心して暮らせる生活環境（＊）と移住・定住者受け入れ環境の整備を進めることが、将来にわたり、「住むことが誇りに思えるまち」であり続ける条件となる。

＊【問２-２】住みにくさの理由として、**「買い物のしにくさ」**、**「医療施設の不十分さ」**、**「積雪量の多さ」が上位**を占めています（図１４ ニセコ町が住みにくいと感じる理由（3 つまで回答可）

＊＊【問２-１】住みやすい理由として、自然環境の豊かさに起因するものが上位を占めています。図１３ ニセコ町が住みやすいと思う理由（3 つまで回答可）出所： ニセコ町町民アンケート **自然環境が豊かである 285 水や食べ物がおいしい 256 静かで落ち着いている 203**

・倶知安町が実施したアンケート結果でも「問 10 倶知安町が住みやすいと感じる点はどういった点ですか。（あてはまるものすべてに○）」に対して**「『自然環境が豊か』が 78.2%で最も多く**、次いで『生まれ育った土地』が 31.3%、『安全安心な場所』が 28.2%、『買い物をする店の多さ、近さ』が 22.1%、『仕事がある』が 9.5%となっています。」

＜将来像のねらい＞

・ニセコ町まちづくり基本条例が目指す「住むことが誇りに思えるまち」に向けた実践が、町民一人ひとりが「日々のくらしのなかでよろこびを実感できるまち」の実現につながる。

→（「住むことが誇りに思えるまち」は目標あるいは成果として実現されるものなので、文章の順番を入れ替え、一部加筆する

→

町民一人ひとりが、世代を問わず「日々のくらしのなかでよろこびを実感できるまち」の前提となる安心（安定した収入があり、子育て、医療、福祉、移動、雪対策などの面での行政による「環境整備」を根底にある）の実現が、ニセコ町まちづくり基本条例が目指す「住むことが誇りに思えるまち」につながる。

＜基本目標２＞「ニセコとの交流ネットワークの拡大と受入環境の整備

＜具体的な施策＞の項目に以下の項目や字句を追加する

●安心・安全な医療・福祉施設の充実

●地域の公共交通の確保・充実

●雪害対策の充実

●地域経済循環の構築と「稼ぐ力」の強化

・環境モデル都市アクションプランに基づく省エネルギー・地域資源を活かした再生可能エネルギーの導入促進

＜基本目標３＞「ニセコ町への誇りや愛着を持つ人材の育成」

＜具体的な施策＞について

○「ニセコスタイル教育」として「幼小中高一貫教育」「コミュニティスクール（学校運営協議会制度）」を挙げていますが、それぞれについてどのようなものか、なぜ必要なのか、現行制度との違いなど私は理解できていません。大きな制度変更を伴うものであれば、合意形成のための時間が別途、必要ではないでしょうか。

現段階での「ニセコスタイル教育」としての中味を以下のものにしてはどうでしょうか。

●北海道ニセコ高等学校の教育内容の充実

●国際交流の場づくり（グローバル化が進んでいるニセコエリアの地域性などを生かして、外国の文化や語学に触れる場づくり）

●スポーツ教育（ウィンタースポーツなど、ニセコの豊かな自然を生かしたスポーツ教育を進める。

●文化・芸術施設の充実（ニセコ町の文化・芸術の要である有島記念館の魅力を高め、ニセコ町の文化的イメージを浸透させる。・有島武郎の人と作品を介した「相互扶助」思想の継承）

以上に下記項目を加えることを提案します。

○ニセコエリアには多くの優れた芸術作家（美術、書、写真）やクラフトマン（木工、金属工芸、ガラス工芸）、音楽家が創作活動や演奏活動をしている。こうした人たちの協力を得て、小中学校での授業や体験授業を取り入れる。

○ニセコ町の開拓や産業の歴史や、ニセコエリアの自然（山、川、生態系）、気候風土

に関する研究者、専門家の講義やワークショップ、様々な職歴、社会経験を活かした町民の特別授業などを取り入れる。

＜基本目標４＞ニセコエリアのブランディングを生かした連携実績の蓄積

「ブランディング」という用語は一般的な用語になっているのでしょうか。また、「ブランド」の強調がふさわしいでしょうか。アンケート結果を根拠としているようですが、2015 年 3 月の「ニセコ町を選んだ理由」では「1 位『自然が多かったから』2 位『静かな環境だったから』3 位『「ニセコ」だから』であるが、2015 年 10 月の「住みやすい理由」として、1 位「自然環境が豊かである」2 位「水や食べ物がおいしい」3 位「静かで落ち着いている」等、自然環境の豊かさに起因するものが上位を占めている。つまりニセコを選ぶときに何となく「ニセコ」というの名前（ブランド）に惹かれていた人も含め、住んでみて良かったと感じているその魅力は 1 位、2 位、3 位「自然環境の豊かさ」という実体を示しています。前述したように倶知安町でのアンケート結果も「『自然環境が豊か』が 8 割近い人が「住みやすい」と感じる理由と回答しています。ですから、強調すべきは実体のある魅力ではないでしょうか。

→ニセコエリアの「自然環境の魅力」を生かした連携実績の蓄積

意見３

・これから、ニセコ町は変わって行くと思いますが、人口が多くなるのもあまりニセコ町らしくないと思いました。
・教育の充実はこれから求められると思うし、ニセコは特殊な地域なので、英語だけではなく中国語などの教育も必要になってくると思います。
・これから骨子にもあったように「人との出会い」がポイントになると思います。
・良い政策を実施するにも財政の面も気になる。（限られた財政であるから）
・住宅不足なのに都市部でのニセコ定住をうながしているのは矛盾を感じる。
・この骨子を見ていると１０年後・２０年後に帰ってきたときに懐かしさを感じるニセコ町になっていない気がする。たしかに、人口が増えることは良いことだし、町が活性化するのも良いことだと思うが、それと同時に自然減少や雰囲気が変わると思う。変化も必要だが、変わらないモノを残していくことの重要性を感じる。そのことでニセコ町民（出身者・移住者）の共生がはかれると思う。
・小さい頃は、小池さんで駄菓子を買って、公園で遊んで、斉藤パン屋でパンを買ってという日常が今思えばすばらしいことなんだなって感じます。そんな雰囲気が残っている街になってほしいと願ってます。
・都市には都市の良さがあり、田舎には田舎にしかない大切なモノがあると思います。
「田舎」は一つのブランドだと思います。

意見４

「ニセコ町人口ビジョン骨子(案)」「ニセコ町総合戦略骨子（案)」への意見

ニセコ町人口ビジョン骨子案について：
　地方の人口減少は国の政策に起因するものではないのかという根本的な疑問があります。人口減少が、自治体の存立基盤を揺るがすことは、想像に難くないことですが、国政の方向性と無関係に、自治体の努力だけで人口減を克服できるとは思えません。
　北海道の農業経営に困難をもたらすであろう TPP 協定、小規模病院の経営を困難にする医療政策など、地方での生活を困難に追い込む国政を転換することこそが、「人口減対策」の第一歩となるように思えてなりません。

Ⅱ. 基本目標と具体的施策
〈基本目標 1〉
〈具体的施策〉
●ニセコ町農産物のブランド化について：
（1）クリーン農業：
　「ブランド化」は、どのようなとりくみの経過をたどって実現することになるのでしょうか。「ブランド」の確立をめざしたからといって、いきなり獲得できるものではないと思います。その前提となるのは、ニセコが特徴ある農産物の産地として、広く認識されることではないでしょうか。特徴ある農産物群（たとえば「有機」栽培農産物）で「産地を形成すること」が欠かせないと思うのです。

　町総合戦略の具体的施策のなかに、「クリーン農業（環境保全型農業)」などで、産地形成を図り、もって「ブランド化を進める」とあります。「クリーン農業」は響きのよい言葉ですが、その実態（例えば農薬使用量）を消費者が正確に知ったとき、消費者自身が思い描く「クリーンな農産物」との乖離に、幻滅を覚えることになるのではないでしょうか。
　有機農産物の JAS 規格が整備される一方で、「減農薬」、「無農薬」、「減化学肥料」、「無化学肥料」などの概念が、必ずしも明確な基準がないままに広がっているように見えますが、「クリーン農業」はそのなかでも基準がもっとも不明確な概念の一つだと思います。「安心・安全」を求める消費者志向は、遠からず農産物の生産実態の正確な認識にたどり着くはずです。
　総合戦略には、「新作物や新技術の導入へのチャレンジ」とありますが、より明確に、目標と具体的施策を設けることが、ニセコ町農産物の相対的優位を獲

意見４

得することにつながるのではないかと愚考します。「クリーン農業」のさらに先をゆく地点に目標を定め、「有機農業促進」の具体的な施策をとってほしいものと希望します。

（2）ビジネスマッチング：

農家との連携・協働対象として、「農作物加工業者・販売業者」があげられていますが、農家と宿泊業の連携による“アグリツーリズム”の推進策を具体的施策として検討されるよう希望します。

以上

意見５

コメントです。

全体の印象

- 中身が多すぎる。
- 網羅的
- 意味不明、意図不明の言葉が多い。
- 言葉の選び方、用法も問題が多く、分かりづらい。
- インパクトがない。

以下、具体的な問題点とそれぞれの改訂案を提示します。

I. 基本目標 1
多様なライフスタイルやニセコの地域性に対応した労働環境の整備

<コメント>
結果を変えようとしても原因に手を付けない限りは実現できない。
ニセコの地域資源を活かす雇用機会創出戦略に軸を置き換えるべき。
<改訂案>
ニセコの地域資源を活かした新たなビジネスを起こし、多様なライフスタイルに合わせて働ける雇用機会を増やす。

＜基本的方向＞
通年で働く、、、、、、、、安定した収入が得られるようにする。
<コメント>
労働環境を整備し、安定した収入が得られるようにするには、まずは、ニセコの地域資源を最大限活用する雇用機会を増やすことを優先すべき。

<改訂案>
ニセコの地域資源（自然環境、再生可能エネルギー- 水力、風力、地熱、温泉熱、太陽光、バイオマス、断熱性を高めた省エネ技術など）を活かした地域循環型ビジネスを起こし、雇用機会を大幅に増やす。働き方はそれぞれのライフスタイル、通年で働く、季節雇用のかけもちで働く、テレワークで働く、子育てと

意見５

両立しながら働く

<

人口減を回避するには地域を豊かにする、新しい富を作り出すことがもっとも効果的。豊かな社会を実現する過程で職場が増え、働きやすい環境も作りやすく、子育てもしやすい。人材も育つ。仕事も増える、そして人口は増える。

再生可能エネルギー（水力、揚水、地熱・温泉熱、風力、太陽光、水素）の地産地消を自治創生の基軸戦略とし、CO2 フリー、環境への負荷が世界最小の国際グリーンリゾートを目指す。

ニセコの地域資源を最大限活用することを目標に、民間の発送電会社、ニセコ・スマート・エナジーを立ち上げ、環境モデル都市の実行プランで目標とする CO2 86%削減と、エネルギー自給体制戦略と有機的なつながりを持たせる。

農業に関する施策がないのは、農業と観光を基幹産業とするニセコ町にとってバランスを欠くことになる。

<施策の追加提案>
従来型の大規模農業に加え、地域資源であるワイン特区を活用し、ワインブドウ栽培を目指す新規就農者、醸造所開設希望者を積極的に受け入れ、農業人口の世代交代を進めながら、農業分野のあたらしい付加価値を創造する。

II. 基本目標 2
ニセコとの交流ネットワークの拡大と受け入れ環境の整備

＜基本的方向＞
~~観光業などを介して~~ニセコ町の魅力を発信することで~~交流ネットワークを拡大する~~とともに、~~子育て環境など~~の受け入れ環境を整備して~~IJ ターンの希望にも応える。~~
<コメント>
観光業などを介して　-> 観光業に限定する必然性はない。発信するのはオール

意見５

ニセコ。
交流ネットワークの拡大　-> 意味が不明。　来訪者を増やす。
IJ ターンの希望にも応える。-> **IJ ターンに限定する理由はない。**
社会移動->流入による人口増を目指すのだから、移住、定住希望者全体が対象。
子育て世代、現役世代、退職後の世代を含め、さらに冬の季節労働者までもカバーすべし。
改訂案
子育て環境や医療サービスを強化し、移住、定住希望者の要求に応える。

III. 基本目標３
ニセコ町への誇りや愛着を持つ人材の育成
＜基本的方向＞
ニセコ町出身者の U ターンモデルを構築し、U ターン者を介してニセコ町の魅力を発信する
U ターンモデルを構築-> 不要　モデルを構築することを目標にしているわけではない。
U ターン者を介して -> 不要　U ターン者に限定する必要はない。

改訂案
人材の育成、強化に取り組み、ニセコ町の魅力を発信できる人材を育て、U ターン者を増やす。

<基本目標のねらい＞
ニセコ町への誇りや愛着をもつ人材は、一部は U ターンを期待できるとともに町外においてニセコ町への IJ ターンへの機運を刺激していく。
改訂案
ニセコ町への誇りや愛着をもつ人材を育て、一時的に町を離れても、ニセコの魅力を町外で発信できるネットワークを強化して IJ ターン者を増やし、U ターン者も増やす。

意見５

IV. 基本目標４
ニセコエリアのブランディングを生かした連携実績の蓄積
ブランド　　　　　　　　　連携強化
＜基本的方向＞
国内外への魅力発信による認知度向上
ニセコの魅力を内外に PR

ストックシェアー
何のストック（？）をシェアー（？）するのかわからない。

ニセコエリア全体としてできることから取り組んで
どこから取り組むか、順番を議論する意味は？　全体としてできることに取り組むことは後先関係なく必要。

実績を蓄積することによりニセコエリアの連携体制の構築に貢献していく。
ニセコエリアの連携を強化する。

個々の施策はそれぞれ重要だが、あまりに多すぎるので、絞り込むことが必要でしょう。
人口減少を食い止める効果の高い物、さらに人口増加に効果があるものとの基準で点数化し、点数の大きい順番かそれぞれの分野で３つにまとめることを勧めます。

現在のドラフトに記載されている内容

1. 労働環境の整備	10 個の施策
2. 交流ネットワークの拡大	9 個
3. 人材育成	5 個
4. 連携実績の蓄積	8 個

合計　　４分野で　　　　　　32 個の施策
教育、人材育成

意見５

自治創生の推進
推進組織
各施策の実行に向けた役場内の専従の体制を早急に決定する必要がある。（環境省に帰る金井さんの後が見えてこない。）
人的資源、財源が見えない。
本当に実現するためのリソースがどのように確保されるか見えない。
地域おこし協力隊の積極活用も試みる価値がある。（現在の活用策は本来の地域起こしの目的とはずれて、原価ゼロの労働力として町の関連施設に送り込まれ、有効活用されていないように見受けられる。）

町民意見の収集、反映について多大な努力をしてきた結果、今回、どれほどのパブリックコメントが寄せられたか、数字で把握する必要がある。
町民講座、まちづくり懇談会、ラジオニセコの電波を使った案内や、町内会の回覧板方式など、新しい挑戦をした。この動きをさらに拡大、強化する必要がある。

意見６

私、町づくり町民講座に積極的に参加し、自治創生委員会や環境審議会の傍聴を通して、「町民同士が語り合い、町民のための町づくりをお互い学び、考え、実践しあう」大切さを改めて思っています。

会合に積極的に参加することで、町づくりのための多様な意見を聞くことができました。
この度、自治創生室からニセコ町の自治創生の方向性として
・ニセコ町人口ビジョン骨子　と
・ニセコ町総合戦略骨子
が示されましたが～
町づくり町民講座や各委員会を傍聴して学んだはずの私にも難解で総花的で枚数も多く～町内で回覧されても理解出来るものか疑問に思いました。
以前、委員会傍聴のおり、ニセコ高校の先生が提出された高校生の発表した資料のような分析の仕方やボリュウムの方がシンプルで分かりやすいと思いました。

とにもかくにも、町内で「町づくり」についての話し合いの輪が町民の間で広がることが大切と考え～10 月の自治創生委員会の傍聴と懇親会に参加がきっかけで、町民有志の方々10 数名と「語り合う会」を 5 回ほど続けています。午後 6 時半から 12 時半まで 6 時間の語り合いということも度々で、一つ、ひとつの話題を深掘りできていますし、楽しい語り合いともなっています。
語り合う大切さをしみじみと感じています。

「町づくり」というきっかけの語り合う場でしたが、【代々の土地の方々あり、移住者あり、多様な世代あり、性別を問わない】この語り合いの場が、温かい人と人のふれあいとなり～移住者の私にはニセコという土地に根を下ろせる土壌となっています。
生活者にとり身近に温かいコミュニティーがある幸せを想うと、既存の町内会や趣味やスポーツの集まり、大きなコミュニティーとしてはあそぶっくやラジオニセコも含め、心通わせ支え合うコミュニティーが多様に存在する「幸せ」を確信します。
コミュニティー大小問わず連繋されれば、自ずから住み心地良い町、子育て環境の良い町となっていき人口減少と縁が薄い町になると思います。

（連繋の集積地の存在がゆくゆく必要かと思います。）

当座、身近な話し合い、語り合いの場からヒントを得、町民の一人として私自身の町づくり案が作れるように心がけて行こうと思っています。

先の NHK のクローズアップ現代の番組で、既に地方創生案が出され実際に予算が国から認可されている町が出ていることを知りました。また、共同通信社から出版されている「町づくりレシピ」もこれから手に入れる予定です。
今後、ニセコ町での町づくり実践に参考になる他の町の先行例が、自治創生室からニセコ町民への資料にあると大変参考になるに違いないと思います。